

水 島 う ら ら*: コゴケ属及びクサゴケ属の学名

Urara MIZUSHIMA*: On the correct latin names of *Weissia*
Hedwig and *Heterophyllum* (Schimper) C. Müller

(1) *Weissia* Hedw.

コゴケ属の学名として C. Müller, Schimper, Paris, Warnstorf, Brotherus を始め現在までの多くの著者は *Weisia* Hedw. を用い、その出典として頁数、年代に多少の喰い違いはあるが Fund. Hist. Nat. Musc. II (1782) を引用している。これは現行の規約からは不適当な引用と云うべきで、現在では同じ Hedwig の著書ではあるが Species Muscorum (1801) 中の同属の名を引用せねばならない。これに就いて Grout は Moss Flora of North America 1 (3): 153 (1938) 中で *Weisia* Hedw., Sp. Musc. 64 (1801) (原文のまま) と記し、脚註に “Spelled *Weissia* by Hedwig, but *Weissia* Ehrh. has been used for *Ulot*a and the present spelling avoid confusion. The botanist for whom the genus was named appears to have spelled his name Weis or Weiss.” としていて Hedwig が Sp. Musc. 中では *Weissia* と s を重ねている事を示している。又岩月善之助氏は 蘚苔地衣雑報 No. 12: 2 (1957) で同属の綴りに触れ、矢張り Hedwig, Sp. Musc. 中では *Weissia* の綴りを用いている事を書いておられる。更に文献に当たて見ると The Bryologist, 46: 105-125 (1943) に Dr. E. L. Little が Later generic homonyms among North American mosses という論文を発表していて、その文中で同属及び後に述べるクサゴケ属について詳しく述べている。しかしこの巻は第二次世界大戦中発刊された為、我が国では殆ど読まれずに終い、現在でも上記二属の学名が疑問のままであるので、同氏の論文を引用してもう一度検討して見る。Dr. Little によればコゴケ属の学名には四通りの綴り方が成され、次の如くである。

Weisia Hedw.: Fund. Hist. Nat. Musc. 2: 90 (1782)

Weisia Hedw.: Fund. Hist. Nat. Musc. 2: 83 (in the key) (1782); Descr. Musc. Frond. v. 1 & v. 2 (1787)

Weissia Hedw.: Descr. Musc. Frond. v. 3 (1792); v. 4 (1797); Sp. Musc. 67 (1801) (*Weissia* Ehrh.: Hann. Mag. 1779: 1003 (1779)

Weissa Schrank: Pfeiffer in Nomencl. Bot. 2: 1610 (1874)

上記の如く Hedwig は自著の中で度々同属の綴りを変えたのであるが現在の規約で命名の出発点となされる Sp. Musc. (1801) 中では *Weissia* と s を重ねた綴りを用いているので、これを正しい綴りとせねばならない。又 Grout が述べた如く Ehrhart は 1779 年に同じ綴りの学名を現在我が国が *Ulot*a と呼ぶ属に与えはしたが、これは pre-

* 東京都、府中市、[REDACTED], Fuchu, Tokyo.

hedwigian の無効名であるから *Weissia* Hedw. の earlier homonym とはならず Grout の云うような confusion も起り得ない。

因に我国ではツチノウエノコゴケに対し、従来 *Weisia viridula* (L.) Hedw. が用いられており、これに対し筆者は本誌 31: 117 (1956) に同種の学名としてはも早 Linnaeus の引用は不要で Hedw., Sp. Musc. (1801) を最初の出典と認め *Weisia viridula* Hedw. を用いる事を述べた。しかし *W. viridula* は Sp. Musc. 中では synonym として引用されており、古来認められる如く *W. controversa* = *W. viridula* ならば、1801 年以前の出版年代でどちらが古くとも、Sp. Musc. 中で正名として扱われている *Weissia controversa* Hedw. を正名として採用すべきである。よつてツチノウエノコゴケの学名及び出典は岩月氏も云われる如く

***Weissia controversa* Hedw., Sp. Musc. 67 (1801)**

W. viridula Hedw., Sp. Musc. 68 (1801) pro syn. となる。

(2) ***Heterophyllum* (Schimper) C. Müller**

前記 Dr. Little も本属の学名に触れてその歴史を書いているが、その経緯からしても本属を独立属とするか *Hypnum* 属の下で亜属とするかによつて問題がある。しかし我が国では現在属として扱われているので、属としての正しい綴字を選ばねばならない。

Dr. Little は本属の名の起源と歴史について次のように記している。*Heterophyllum* が最初に用いられたのは *Hypnum* subgenus *Heterophyllum* Schimper, Syn. Musc. Eur. 629 (1860) である。Kindberg は Canad. Rec. Sci. 6: 72 (1894) で *Heterophyllum* (Schimper), C. M. と云う名を載せ、一種 *nemorosum* (Koch), Kindb. を記している。しかしこの後者の発表が有効か否か疑わしく且 Paris, Index Bryol. ed. 2, 2: 312 (1904) に *Rhapidostegium* (Br. Eur.) De Not. の Synonym として *Heterophyllum* C. M. in Dusen M. Camer. と記してあり、これは明かにアフリカ、カメルーン産の標本に附けられた unpublished herbarium name である。更に Kindberg は Eur. & N. Amer. Bryin. (1897) Genera の項に短い記載と共に “*Heterophyllon* Kindb.” を載せ、Species の項 (1896) に記載を伴つた 5 種を記している。又、Brotherus は Engler & Prantl, Nat. Pflanzenfam. ed. 2, 11: 409, 411 (1925) に Sematophyllaceae—Heterophylloideae に *Heterophyllum* なる綴の genus を挙げ、Grout は Moss Flora N. Amer. 3: 137 (1932) に *Heterophyllum* の綴りを用いたが、後 appendix (同書 2: 272 (1940)) ではこれを *Heterophyllum* と直している。従つて Little は “クサゴケ属に対する正しい綴り方は *Heterophyllon* Kindberg (1896) である” といつている。しかし筆者はこの結論に賛成出来ない。何となれば *Heterophyllum* は最初 subgenus として書かれ、属として扱われたのは 1925 年であるからこれはしばらく措き、*Heterophyllum* を検討して見るとこの綴りが最初に表れたのは Schimper, Syn. Musc. Eur. ed. 2, 2:

765 (1876) であつて同書中に *Hypnum* subgenus 8 *Heterophyllum* とし、記載を伴っている。この subgenus は *Hypnum Haldanianum* Grev., *H. nemorosum* Koch, *H. Lorentzianum* Molendo の 3 種を含んでいる。又 Kindberg は Macoun, Catalogue of Canad. Pl. VI, Musci, 239 (1892) に *Hypnum* subgenus VIII, *Heterophyllum* C. Müller を載せ、この中に *Hypnum Haldanianum* Grev., *H. nemorosum*, Koch., *H. flaccum*, C. M. & Kindb. (n. sp.), *H. subflaccum*, C. M. & Kindb. (n. sp.), *H. pseudo-drepanium* C. M. & Kindb. (n. sp.) を記載している。Kindberg がここで *Hypnum* subgenus *Heterophyllum* の author として C. Müller を用いたのは肯けないが、その *Hypnum* 属中での位置、含む種類から見て Schimper の亜属と明かに同一である。そして次に Canad. Rec. Sci. 6:76 (1894) 中の *Heterophyllum* (Schimper) C. M. に続くわけで、規約上でも *Heterophyllum* の綴りが有効という事になろう。おそらく Dr. Little は Schimper の Synopsis Musc. ed. 2 及び Kindberg の Macoun, Catalogue of Canad. Pl. 中の同名を見落したものであろう。*Heterophyllum* の綴りが生きる場合でも Dr. Little が書いて居る *Heterophyllum* Bojer (1758) は manuscript name であつたものを Hooker が *Byttneria* の synonym として引用したのみであるから、earlier homonym としての心配はない。従つてクサゴケ属は comb. nud. ではあるが

Heterophyllum (Schimper) C. Müller ex Kindb. in Canad. Rec. Sci. 6:72 (1894) と記す事を提唱する。

終りに常々御教示を賜わつている共立薬科大学教授、桜井久一博士、命名規約に就いて御教示を賜つた東京大学教授、原 寛博士に御礼を申し上げます。

Concerning the nomenclature of Japanese mosses, I revised the orthography of *Weissia* or *Weisia*, and that of *Heterophyllum*, *Heterophyllum* or *Heterophyllon*. Though Dr. E. L. Little, Jr. already discussed on this subject in Bryologist 46:116-118 & 123 (1943), this article seems to have been overlooked by Japanese muscologists. Little's opinion that *Weissia* Hedw. (1801) should be retained against the general use, *Weisia*, is doubtlessly correct. The retaining of *Heterophyllon* Kindb. (1897), however, should be replaced by **Heterophyllum** (Schimp.) C. Müller ex Kindb. (1894) which is based on *Hypnum* subgen. *Heterophyllum* Schimper, Syn. Musc. Eur. ed. 2, 2:765 (1876) with a latin description. Since Little did not cite Schimper's 2nd edition, presumably he might overlook it.